

---

# 地域戦略人材塾 関係人口とサードプレイス

2021年11月24日

法政大学大学院 政策創造研究科 石山恒貴

---

# 1. 環境認識

## 人間の適応力を越える加速の発生→コロナでさらに加速

- ◆ 1964年「ムーアの法則」は50年続いた（2年ごとにマイクロチップ性能が2倍）
- ◆ クラウドコンピューティングがスーパーノバに、母なる自然、環境変化も加速する
- ◆ 3つの「R」：読み（リーディング）、書き（ライティング）、算数（アリスメティック）
- ◆ 4つのC：クリエイティビティ（創造性）、コラボレーション（共同作業）、コミュニティ（共同体）、コーディング（プログラミング）
- ◆ 4つのCが、ポータブルスキルそのもの

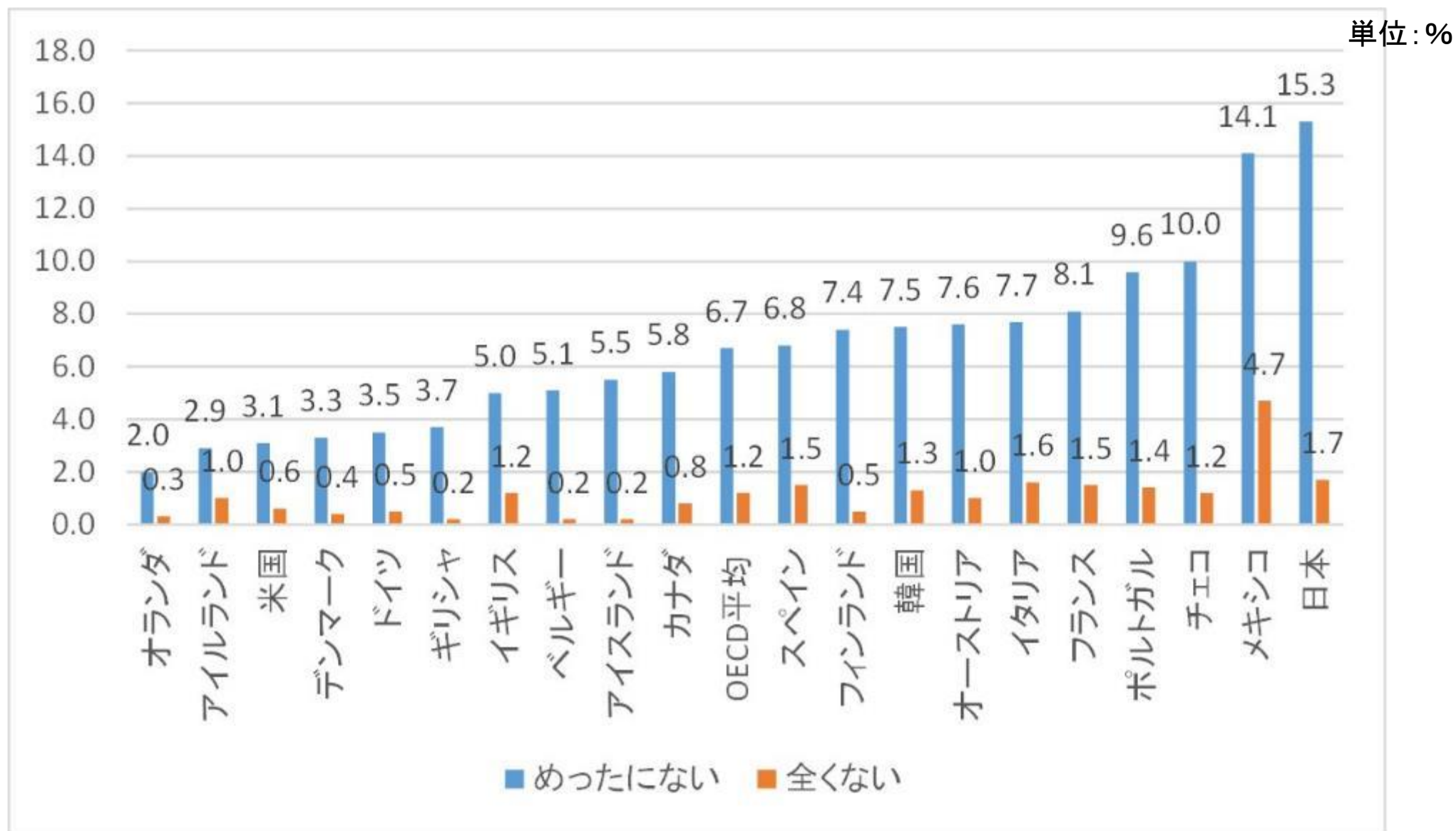
# スタイルの比較→働きたいように働く

	Work from Home	Work from X
モード	強制的	選択的
働く場所	自宅	今いる場所
分散	小さいorない	大きい
仕事の進め方	既存の代替	リモート最適化
コントロール	管理職や会社から	自分で主体的に
セレンディ ピティ	小さい	大きい

# 地域と人口増加の時代

- ◆ 人口増加の時代
  - ✓ 「集団で一本の道を登る時代」
  - ✓ 「すべてが東京に向かって流れる時代」
  - ✓ 拡大・成長と効率→自動車社会、中心部の空洞化
  - ✓ 時間軸が優位の時代
  
- ◆ 人口減少の時代
  - ✓ 主観的な幸福
  - ✓ 地域への着陸、ローカル志向
  - ✓ 持続性→街の中心部で歩ける
  - ✓ 空間軸が優位
  
- ◆ コロナ禍により、過度な都市などへの集中システムの脆弱さがあきらかに。いかに分散型システムを取り入れるか（2020年5月28日日経新聞・広井教授コメント）

# 社会的孤立：友人、仲間、その他の集団と交流がない比率



出所) OECD Society at a glance 2005 CO2.1

# コミュニティとは

	農村型コミュニティ	都市型コミュニティ
特質	同心円のつながり	独立した個人につながり
内容	共同体・一体意識	個人・公共意識
性格	情緒	規範
関連事項	共同性	公共性
ソーシャル キャピタル	統合型(同質)	橋渡し型(異質)

**\* 古い共同体が崩れて、それに代わる新しい集団ができていない**

出所) 広井良典 (2019) 『人口減少社会のデザイン』 東洋経済新報社、87ページ、図表2-3

---

## 2.関係人口とは



- ◆現在、居住している地域
- ◆ふるさととしての地域
- ◆現在居住もしていないし、ふるさとでもないが、なんらか関わりのある、または自分がファンになっている地域

# 人口減少問題の経緯

- ◆ 2014年「増田レポート」およびその後の『地方消滅』の出版
- ◆ 2014年安倍首相の所信表明演説「地方創生」：人口減少の歯止めと東京一極集中の是正
- ◆ 「自治体間人口獲得ゲーム」：空き家あっせん、こどもの医療費無料、移住者への一時金
- ◆ 「地方は消滅しない」という反論→地方への関心の高まり、若年女性人口だけへの注目、存続可能性の無視
- ◆ しかしいずれにせよ、人口だけ増やせばいいものではない

# まちづくり幻想

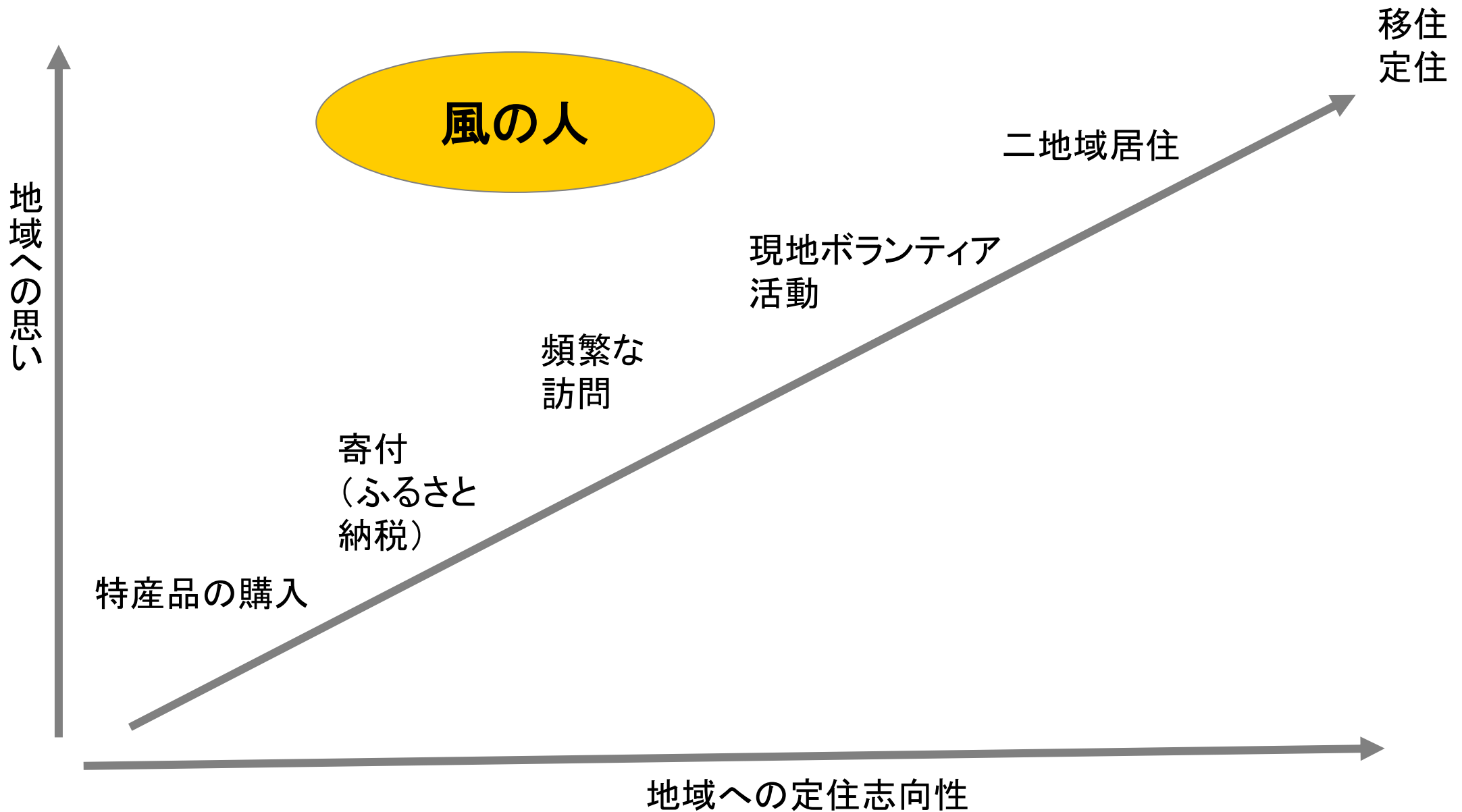
- ◆ 地方創生を「人口減少」を出発点にした失敗→回復不可能な人口問題  
よりも、地方が独自かつ多様に発展するための権限と財源委譲が必要
- ◆ 安くたくさん、ではなく付加価値の高さが必要
- ◆ 必要のない予算が地方を疲弊させる
- ◆ 成功事例の横展開が失敗を大量生産（ワーケーション）
- ◆ 低賃金・長時間労働を当たり前とする経営思想で若者流出
- ◆ 地元の成功者は収奪者と考え、妬まれる
- ◆ 皆で力をあわせ、という発想で意見が言いえない
- ◆ よそ者を過剰に評価するか、過剰に悪者と思う
- ◆ 関係人口を単なるファン・精神性で評価、経済的中身が欠落

◆定住人口

◆交流人口

◆関係人口

# 関係人口の位置



# 関係人口の定義と分類

## ◆ 「特定の地域に関心を持ち、関わるよそ者」 (77頁)

類型	これまで論じられてきた関係人口	
①バーチャルな移動型	圧倒的に好き／特産品購入／寄付（ふるさと納税）	近居の者／遠居の者 何らかの関わりがある者
②来訪型	逆参勤交代／ディレクター／ハブ的／頻繁な訪問	
③風の人型	風の人（一時的に居住し別の集団に移動）	
④二地域居住型	ダブルローカル／二地域居住	

出所) 田中輝美 (2021) 『関係人口の社会学』 大阪大学出版会

# 「よそ者」とは

- ◆ 「旅の人」「風の人」
- ◆ 道化やトリックスター（排除される存在でもある、ドンキホーテ、賢明なる愚者）
- ◆ アウトサイダー（逸脱する存在）
- ◆ ストレンジャー（旅の芸人、商人、一定期間存在して離脱）
- ◆ まれびと、異人（中心と辺縁を往来する存在、共同体から疎外された存在）

# よそ者効果

1. 「地域の再発見効果」→よそ者のまなざしによる地域資源の再発見や評価
2. 「誇りの涵養効果」→よそ者による評価や褒め
3. 「知識移転効果」
4. 「地域の変容を促進」→よそ者の異質性が「驚き」「気づき」をもたらし変容を促す
5. 「地域とのしがらみのない立場からの解決案」



# 関係人口とよそ者への批判

## ◆関係人口の勃興（ゼロサム問題回避）

しかし

◆定住人口難しいから関係人口？

◆定住しない「ゆるい人間」が何の役に立つのか？

◆よそ者を「スーパースター」「万能薬」と考え、とにかく関係人口増やす「関係疲れ」

出所) 田中輝美 (2021) 『関係人口の社会学』 大阪大学出版会

---

# 3. サードプレイス

# サードプレイスとは

- ◆ サードプレイスとは、家庭（第1の場）でも職場（第2の場）でもない第3のとびきり居心地よい場所
- ◆ イギリスのパブやフランスのカフェ、日本では言えば地元の居酒屋
- ◆ 8つの特徴：中立性、社会的平等性の担保、会話が中心に存在すること、利便性があること、常連の存在、目立たないこと、遊び心があること、もうひとつのわが家

出所) Oldenburg, R. (1989) The great good place, New York: Marlowe & Company (忠平美幸訳(2013)『サードプレイス』みすず書房).

# カフェの特徴

---

- ◆ 人間関係が対等（地位や年齢が関係ない）
- ◆ 職場や家庭で出会えない人と会える
- ◆ 自由参加
- ◆ 参加者が主役
- ◆ 言いたいことが言える
- ◆ 開放的
- ◆ 知識、価値が創造される

## サードプレイスの構想

- ◆ 「インフォーマルな公共生活の中核的環境」→ジンメルの上下関係の無い社交とジェイコブズの地元密着型の賑やかなコミュニティ
- ◆ パットナムの『孤独なボウリング』  
=ソーシャルキャピタル→社会的孤立を避ける

# サードプレイスの分類

- ◆ サードプレイスはマイプレイス型と交流型に区分できる
- ◆ さらに交流型を社交的な交流(社交的交流型)と具体的な目的を意図した交流(目的交流型と呼ぶ)に区分できる
- ◆ マイプレイス型：人を気にせず個人で居心地よく過ごす、一般的なファストフード店やカフェなど
- ◆ 社交的交流型：カフェの店主と利用者が交流し、なじみが形成されるカフェなど
- ◆ 目的交流型：港南台タウンカフェ、非営利型株式会社ポラリスなど

義務的共同体  
(地縁コミュニティ)

自治会  
消防団  
PTA



目的

目的交流型  
(地域のサードプレイス)

地域のNPO、地域の  
読書会・勉強会、  
こども食堂、  
地域のプロボノ、  
コミュニティカフェなど



趣味  
サークル

同好会  
など



社交交流型

地元の居酒屋  
パブなど



マイプレイス型

チェーン  
コーヒー店  
など



義務的

自発的

該当なし

癒し、憩い

# サードプレイスの分類

出所)石山恒貴 (2021)「サードプレイス概念の拡張の検討  
 ——サービス供給主体としてのサードプレイスの可能性と課題」  
 『日本労働研究雑誌』No.732,pp.4-17,p12,表2

サードプレイスの特徴	伝統的 サードプレイス	演出された商業的 サードプレイス	バーチャル サードプレイス	テーマ型 サードプレイス
中立の領域	強い	強い	強い	強い
人を平等にする	強い	強い	強い	強い
会話がおもな活動	強い	弱い	強い	強い
利用しやすさと便宜	強い	中程度	強い	強い
常連	強い	弱い	中程度	中程度
目立たない存在	強い	弱い	中程度	中程度
遊び心がある	強い	強い	強い	強い
もうひとつのわが家	強い	強い	強い	強い
場所(ローカル)性	強い	中程度	弱い	中程度
空間(コスモポリタン)性	中程度	強い	強い	強い
常設性	強い	強い	中程度	中程度
事業性	中程度	強い	中程度	中程度
固有の特徴	場所性が強い 結束型	個人の憩い、癒し 社会関係資本弱い 事業性強い	アクセス容易 階層、上下関係ない 場所性弱い 橋渡し型	空間性が強い 橋渡し型



出所)石山恒貴 (2021)「サードプレイス概念の拡張の検討——サービス供給主体としてのサードプレイスの可能性と課題」  
『日本労働研究雑誌』No.732,pp.4-17,p12,表2

寄付行為、クラウドファンディング  
署名を行うなど、個人としての  
何らかのテーマ性ある活動

個人の  
プライバシー

演出された商業的サードプレイス  
(マイプレイス型)

効果:地域への愛着  
個人としての憩い、癒し

テーマ性

拡張の範囲

テーマ型サードプレイス  
(目的交流型)  
バーチャルサードプレイス

空間性(開放性、自由、脅威)  
コスモポリタン性  
効果:社会関係資本  
(橋渡し型)の創出

集団での  
交流

伝統的サードプレイス  
(社交交流型)

場所性(愛着、安全性)  
ローカル性  
効果:地域への愛着  
社会関係資本  
(橋渡し型)の創出

地域性

# 先進的なサードプレイス事例

団体名	特定非営利活動法人 土佐山アカデミー	コワーキングスペース チガラボ	コラーニングスペース Heart Lighting Station 弘前
設立	2012年10月1日	2017年1月9日	2017年4月29日
所在地	高知県高知市	神奈川県茅ヶ崎市	青森県弘前市
ビジョン	土佐山アカデミーは、次の100年のために、地域の資源を活かし、新たな出会いやアイデアを育む出会いの場。 「大人の才能を無駄づかいする」	ヒトのつながりから、あたらしいコトが生まれつづける社会に。 「まちの非武装地帯」	「まちの学校」として、人や組織や地域の学び・成長を様々な角度からサポートし、誰もが自由に学び、自ら未来を切り拓いていける社会を創ります。
主な活動内容	高知市の源流域である中山間地「土佐山(旧土佐山村)」を拠点として「人が自然の一部として生きる文化を育む」というミッションの実現に向けて「学びの場づくり事業」「つながりづくり事業」「文化・社会づくり事業」といった事業を実施。	ワークスペースとともに、イベントやワークショップを実施。長期的な関係性を大切にするコミュニティを形成。おたがいの新たなチャレンジや実験を応援しあう、そんなコミュニティをめざす。本を読む、ゆっくり考えごとをすることといった気軽な使い方も可能。	イベントやセミナーの会場、フリーランスの方や出張などで弘前を訪れた方のワークスペース、高校生・大学生のラーニングスペース。「弘前まちなかキャンパス」という大学生が地域で学ぶ、インターンシップの取り組みなども実施。

出所)石山恒貴 (2021) 「サードプレイス概念の拡張の検討——サービス供給主体としてのサードプレイスの可能性と課題」『日本労働研究雑誌』No.732,pp.4-17,p12,表2

## 場所の安全性

- ◆ 地域への愛着を起点：土佐山の自然、茅ヶ崎のゆったりとした雰囲気
- ◆ 「まちの非武装地帯」：やりたいことを自由に言える安心安全な場
- ◆ 「食による交流」：HLS弘前の「金曜日はふらっと」「スパイスカレー研究部」、土佐山の「世界最速そうめん流しチャレンジ」
- ◆ 「遊び心」：土佐山の「大人の才能を無駄づかいする」

- ◆ 常連を階層化しない：HLS弘前では、年間100本のイベントを打つ。チガラボでは、イベント（たくらみ）を小さくやる「参加する→整理して発信する→イベントを主催する→活動が始める」
- ◆ オンライン化：チガラボの全国のコワーキングスペースイベント、土佐山の「オンライン焚き火」

# ホスト

- ◆ 一人のホストでなく、多様な事務局のつながりから、多様な新規参入ルートを確保（HLS弘前の大学生）
- ◆ とにかくホストは、新規参入者にウェルカム感をだす（チガラボ）
- ◆ ホストは黒子に。権限委譲（HLS弘前）や、参加者が主体的にイベントを企画（チガラボ）

## サードプレイスとしての「ゆるキャン△」

- ◆ 野クルに楽しみながら、参加
- ◆ 出入り自由→リンとえなは部員ではないが、参加は強制されず、キャンプだけ来ている。リンやなでしこのソロキャンは尊重されている
- ◆ 鳥羽先生は顧問という役割だが、上から強制しているわけではなく、実際は上下関係なく、皆で意思決定している
- ◆ みな、主体的にキャンプ（と地域）に情熱をもっている

## 川崎プロボノ部 Yさんの事例

- ◆ 40歳代から、越境学習、プロボノを知る
- ◆ 50歳代半ばに開始、定年後、地域社会に馴染めない、入れないという男性が多いことを見聞き。地元川崎市のことをもっと知りたい
- ◆ 週で5~10時間くらい、隙間時間にZOOMなど。対面のミーティングについては、序盤は3週間に1回、終盤は1週間に1回
- ◆ 川崎のいろいろな分野の人や活動との繋がりができた
- ◆ 定年退職を控えて、地域に溶け込めるかなと不安だったものが、「気楽に溶け込める」という意識の変化
- ◆ 今までの自分のキャリアやスキルは捨てたものではない、思いのほか汎用性があることに気が付き、自信が持てる
- ◆ 多世代が混ざり、会社では出会えない異なるカルチャー、世代の人たちとフラットに関われる

## ふりかえり

---

- ◆今ままでどのようなサードプレイスに参加されましたか。その感想は、どのようなものですか
- ◆今後、どのようなサードプレイスに参加してみたいですか



---

## 4. サードプレイスの事例

# チガラボ

- ◆ 茅ヶ崎駅からほど近くに位置する coworking スペース、藤沢、鎌倉、逗子という湘南エリアの4つの coworking スペース事業者は、連携して一般社団法人 Workation Network を創立
- ◆ 茅ヶ崎→都心の通勤圏であるものの、適度な距離があり、海も山もあり、自然豊か。自転車にはサーフィンを積むラックがあるなど、平日の昼間からサーフィンをしている人も多く、自分らしく生きることができるゆったりした雰囲気（空気）に満ちる
- ◆ チガラボの考えるワーケーション→茅ヶ崎の雰囲気（空気）を、そこに集まる人と接することで体感し、忙しい日常を括弧に入れて、身体性、精神性を回復させ、新しい価値を創造していくこと
- ◆ 「ヒトのつながりから、あたらしいコトが生まれ続ける社会に」→多世代のコミュニティメンバーが、主体的にイベントやプロジェクトを立ち上げる（食、農業、写経、働き方、音楽、落語など）→失敗を恐れて、自分の企画を諦めない「まちの非武装地帯」

# チガラボのイベント（たくらみ）の多様なテーマ

**地域**

さまざまな地域、食や農林水産業、お酒、暮らし

**食**

未活用魚、牡蠣、オーガニック野菜、ワイン・ぶどう、ジビエ

**働き方**

起業、キャリア、働き方改革、ワークライフバランス

**文化**

映画、音楽ライブ、落語、写真・カメラ、アート

**テクノロジー**

IT、Web、動画、SNS、ドローン、ものづくり

**ヘルスケア**

姿勢、カラーセラピー、コーチング

**社会課題**

SDGs、人生100年時代の生き方、空き屋、子育て、教育

---

# 5.社内のサードプレイス

## 社内のサードプレイスの価値（AGCなど）

---

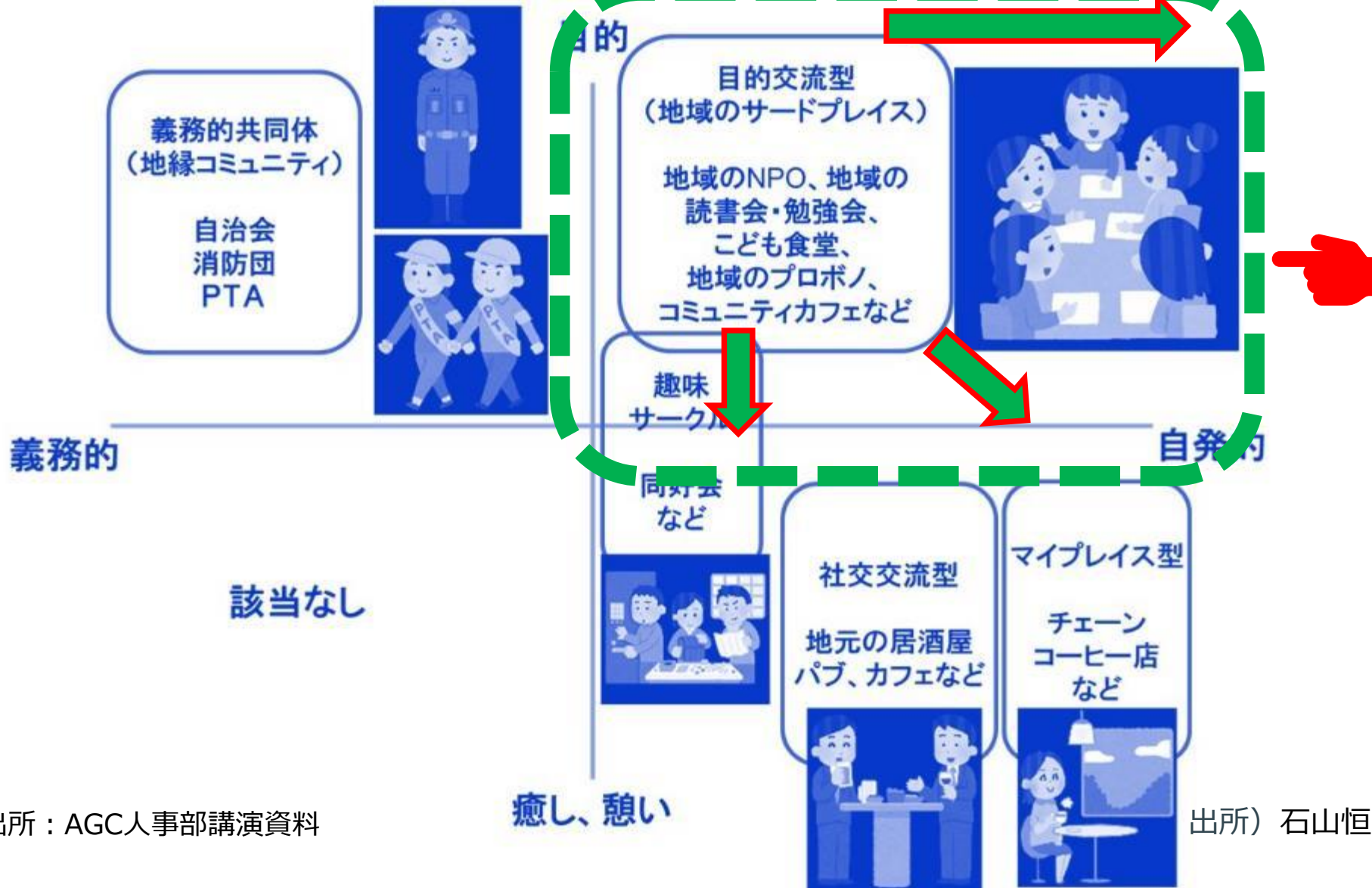
- ◆ 自由に知識創造する場（サードプレイス）
- ◆ 専門性を持つ人間が交流する場
- ◆ 多様性あるコミュニケーションが行われる場
- ◆ 多様で異なった目的で集まる人へ、リーダーシップを発揮する場

- ◆ 2011-2015 成果を求める「部門横断的ネットワーク活動」 Cross-divisionalNetworkActivity
- ◆ 2015 成果をはじめから求めない、やりたい人がやりたいことを、自由な発想でやる活動。人脈形成が第一目的
- ◆ 2016 ヨーロッパのHR「プロフェッショナルクラブ」
- ◆ 2018 石山講演「社内のサードプレイス」

# CNAの目指すサードプレイスとは

2011～2014

2015 以降



出所：AGC人事部講演資料

出所) 石山恒貴教授 講演資料

# AGCのサードプレイス効果指標

---

- ◆ 主体性
- ◆ 対話型コミュニケーション
- ◆ シェアド・リーダーシップの発揮
- ◆ 遊び心
- ◆ 心理的安全
- ◆ 対等性



---

## 6.まとめ

## 個人の課題

---

- ◆最初の一步（何かからはじめていいか、わからない、知らない人と話すのが苦痛、チガラボのエレベーターのボタン）
- ◆枠組みがあると、やりやすい
- ◆オンラインでさらに気軽に
- ◆まずやってみると、勝手に広がるようになる

## サードプレイスの課題

- ◆ 当たり前前の前提、固定概念の打破
- ◆ 常連は重要だが、新しい人が入りにくい
- ◆ 参加メンバーが固定化、マンネリ化
- ◆ 事務局だけががんばり、燃え尽きてしまう
  
- ◆ どうやって遊び心をもたせるか（枠をこえる、楽しむ）
- ◆ どうやって、安全な場とし、上下関係をなくすか
- ◆ 新しい人の多様な参加ルート
- ◆ 事務局の存在と、参加者の主体性のバランス
- ◆ 多様なテーマをどうやって設定していくか

## 問題提起

- ◆ 関係人口をどうサードプレイスと連携させるか
- ◆ サードプレイスを地域にいかすためにはどのような課題があるか
- ◆ サードプレイスを地域にいかすためには、今後どのような方向性が望ましいか